



任期満了に伴う枕崎市長選挙が1月21日行われ、即日開票の結果、前田祝成氏が当選しました。

枕崎市長選挙結果

■候補者別得票数		■投票率	
前田 祝成	6,637票	男 60.86%	女 65.51%
大工園 周作	4,982票	計 63.39%	

市民のみなさま
よろしく申し上げます

枕崎市長 前田 祝成

市民のみなさま、こんにちは。1月21日の枕崎市長選挙で、みなさまからの温かいご支援をいただき、市長の重責を与えていただきました。これから4年間、力の限りを尽くして、枕崎市のために仕事をしたいと覚悟です。枕崎は現在、人口減少、少子高齢化、厳しい財政状況といった厳しい環境下にあります。国の研究所の将来人口予測も2025年には19000人を切るという予測になっています。この人口減の状況の中で、まちをどう設計し、市民の暮らしをどう形作っていくかということが、これからの大きな課題となっています。

財政状況から申し上げますと、持続的な財政力をつけていき、自治体として自走していくためには、自主財源の安定的な確保が必要とされます。そのためには、枕崎の強みである産業、お茶、花き、果実、畜産の農業や特定第三種漁港である枕崎港を核とした水産業、鰹節や焼酎といった製造業、観光、商業を含め、産業の競争力を高めていくことが求められます。私は30年間、地元枕崎の民間企業でマーケティング、ブラ

ンディング、経営戦略を仕事にしてきた経験と人脈を活かして、この枕崎の産業を再活性化していくことで枕崎を活気のあるまちへ再生するため、産業界と行政がよい緊張感の中で高め合う関係を築いてまいります。そのためには、今までの延長線上ではない、既存の枠を超えるような新しい考え方、アイデア、仕事の仕方を生むようなイノベーション(革新)を起こし、新しい価値を創造していくことが求められます。そのようなイノベーション(革新的)な組織に育つためには、組織を学習する組織として育成することが必要です。市民のみなさまとも積極的に意見交換を行い、専門の識者との研究開発の協働など、積極的な取り組みを行います。

また、人口減少社会の中でも未来を担う子どもを産み育てたいと思う環境づくりにも取り組んでいきます。この点も前提としては、若いお父さんお母さんが働く場を必要としますし、保育環境も整え、さまざまな子育てのサポート



▲前田市長の初登庁にはたくさんの市民や職員がお出迎えました

ト体制も必要となり、産業が強くなるという前提は外せないと考えます。人生100年代、赤ちゃんからお年寄りまでが生き生きと暮らせるまちづくり、コミュニティのデザインを再設計していくこともこれからまちの動きを作っていく上でも重要です。いろいろな可能性を排除せず、市民参加のまちづくりへ取り組みます。また、市民のみなさまとのコミュニケーションも語る会を通じて積極的に取り組んでまいります。みなさまお一人一人の力を結集して枕崎の未来を一緒に作っていきましょう。よろしく申し上げます。



前市長 神園 征氏

市民の皆さん
ありがとうございます

平成14年1月26日から途中充電期間を経まして、3期12年にわたり皆様のご支援をいただき、平成30年1月25日に枕崎市長としての任期を終えました。この機会に、皆さんにお世話になった12年間を振り返ってみようと思います。

【財政再建】

私は、初めての市長就任後、直ちに「財政危機宣言」を出しました。枕崎市は昭和31年から10年間「財政再建団体」でした。その後、健全化されればよかったのですが、私が就任した時点では「財政危機宣言」を出

さざるを得ない状況でした。その後、市立保育所や妙見の里の民営化、学校給食センター調理・配送業務の委託化など多くの課題に取り組み、財政危機宣言を出したときと比べる現在では、危機的財政状況を脱し、将来への展望に明るい兆しが見えてきたように思います。しかし、今後も取り組みを進めていかなければならない課題です。【枕崎駅舎を市民の力で建設】現在の枕崎駅舎は、建設資金のほとんどを市民中心の寄附で賄ったという意味で「世界

【枕崎国際芸術展を開催】枕崎国際芸術賞展は、25年にわたって開催してきた「風の芸術展」の実績を基に、審査員に日本画家の千住博先生、東京藝術大学教授の保科豊巳先生、台湾の台北芸術大学の曲徳益先生という日本と台湾を代表する芸術大学の先生方をお迎えし、枕崎の新時代に期

【コンテナ取扱施設の整備へ向けて】かつお節用原魚となる冷凍カツオなど、水産物のコンテナ取扱施設の整備に向けて、各種団体と協力しながら、県や国に要望活動を行い、整備や運営について協議・検討を行っています。枕崎漁港にコンテナ船が寄港することで、原魚調達のコスト削減をはじめ、水産物の輸出入や新事業の創出、企業誘致など地域経済が活性化することを期待します。

【市民運動会でラストラン】平成23年4月に急性心筋梗塞におそわれ、それ以降、走ることは医者から止められました。しかし、走りたい気持ちにはずつとありました。市長として最後となる昨年の市民運動会は、雨の中の開催で、一部プログラムを中止しての開催となりました。私は走りたい気持ちを抑えられず、副市長たちとチームを組み、輪回しに出場しました。全力疾走とはいきませんでしたが、楽しむことができました。



以上、私の任期中の主な成果と出来事を述べてみました。私は役所を後にしますが、また何らかの形で誇りある枕崎市の更なる発展のため、微力を尽くしたいと思っております。皆さんのこれからのご多幸を祈ります。市民の皆さんには、長い間本当にお世話になり、ありがとうございました。